福島県 高文連会報

編集発行人
福島県高等学校文化連盟
会長　湯田　重哉
事務局
福島県立安積黎明高等学校
〒963-8017 郡山市長者2-3-3
電話（024）991-7313

コロナ禍　異例の一年
福島を元気づける　高校生の「輝き」

世界中を襲った新型コロナウイルスの影響により、例年開催されてきた本県の文化部の大会・行事も、中止や開催変更を余儀なくされた。特に、高校生活の集大成となる大会の中止は、それを目標に活動してきた生徒達に大きな打撃を与えた。

そのような中、主催者の尽力によって開催された大会において、本県の高校生が大きな輝きを見せた。

全国家庭クラブ研究大会 文部科学大臣賞受賞！
耶麻農業高校 家庭クラブ　鵜川 美涼さん

（写真）向かって左から 石川雨音さん 鵜川美涼さん 大関育美さん

第68回全国高等学校家庭クラブ研究発表大会ホームプロジェクトの部において耶麻農業高校 ライフコーディネイト科 ３年 鵜川 美涼さんの「（題目）母の笑顔満開～病気にかつ！新習慣～」が見事全国１位相当となる文部科学大臣賞を受賞した。また、全国の家庭クラブ生徒の投票による、クラブ員奨励賞もあわせて受賞した。

耶麻農業高校　鵜川　美涼

「母を支えたい…」と始めたこの研究が全国大会で1位になった事を大変うれしく思います。

２年半の継続研究ができたのも、このような賞をいただけたのも、協力くださった皆様のおかげです。研究チームの大関さん、石川さん、指導くださった北原先生、クラスメイトのみんな、そしてお母さん、心より感謝しています。

研究発表補助　大関　育美

２度目の挑戦で念願の全国大会出場が叶い、最高賞の獲得は、心の底から嬉しかったです。

会場発表から動画発表に変更になり、急遽求められた動画作成はうまくいかず涙を流しました。苦労した分最高の喜びを感じることができました。研究に参加できたこと、美涼さんにはとても感謝しています。

研究発表補助　石川　雨音

研究を始めたての頃は受動的で自信がなく人前に出るのが苦手な私達３人でしたが、大会出場を重ね、今では多くの人の前で堂々とステージに立てるようになりました。３人でたくさんのプロジェクトに挑戦できたことを幸せに思います。

発表内容

母の笑顔満開
～病気にかつ！新習慣～

研修概要

母は卵巣がん治療中です。母の病気からの回復を支えたいと思いこの研究を始めました。

実践内容

1．ストーマ対策
　(1) 防水カバーで漏れ解消
　(2) 糀消臭剤考案で臭い解消
2．会津伝来薬草ブスの実で免疫力アップ！
3．おしゃれがまん解消
　(1) 手作りキャップ製作
　(2) ワンタッチ前髪考案
4．免疫アップ食習慣の提案
　(1) 免疫アップ食材ポスター
　(2) 毎日味噌汁習慣ノート
　(3) 手作り倍糀生味噌
　(4) 手作り三五八と新活用法

評　価

1．医師による第三者評価
2．母による評価

母は、自分の病気が誰かの役に立つのは嬉しい、と研究の意義を示し支えてくれました。

私はこの研究を通し、病気を心配するだけでなく、病気と向き合う強さを得ました。

母の療養生活は続きます。母の笑顔満開がずっと続くよう、母のサポートを続けます！

「黒板アート甲子園2020」優秀賞
会津学鳳高校　美術部が2年連続上位入賞

応募作品総数135点の中から、全国上位３校に贈られる優秀賞に輝いた。同校美術部は、昨年の最優秀賞に続き２年連続全国上位入賞を果たした。

講評では、色数が限られるチョークで屏風の金色を表現する高い技術と、インパクトある色彩の美しさが高く評価された。

（写真）会津学鳳高校美術部のみなさん　背景は受賞作品「掴め!!」

会津学鳳高校
美術部部長　小　椋　千　聖

私たち美術部は「日学・黒板アート甲子園２０２０」に参加し、「掴め!!」という作品で全国2位にあたる優秀賞をいただくことができました。昨年、先輩方が最優秀賞という輝かしい成績を残されたこともあり、プレッシャーも少なからずありましたが、２年生メンバー６人で協力して良い作品を完成させることができました。

一番苦労したのはアイデアをまとめることでした。今までにないインパクトを求めて、みんなで悩んで今回の原案を生み出しました。制作中は終わりの見えない作業が続き、嫌になることもありましたが、作品が完成したときは心から黒板アートに取り組んでよかったと思いました。

私たちの黒板アート作品が消されても、次世代の部員たちに伝統を繋いでいってほしいと思います。

映画「Fukushima 50」黒板アートの制作実演
（2020．2．23　新宿ピカデリー）

磐城高校文学部　優秀賞受賞
全国高等学校文芸コンクール 文芸部誌部門

磐城高校文学部
松野　未悠

この度は、私たちの部誌「磐高文学 第78号」が優秀賞という素晴らしい賞を頂くことができて、本当に嬉しく思います。

今回の部誌は、これまでの伝統を引き継ぎながらも「曲想文学」などの企画を取り入れるなど、新しい試みの多い部誌となりました。それをこのように評価していただき、光栄に思います。

最後になりますが、八幡印刷所の皆さん、顧問の蛭田雅則先生、高松明日香先生そして部員のみなさん、本当にありがとうございました。

受賞した部誌
「磐高文学第78号」

磐城高校文学部の皆さん

活動訪問　企画
郡山高校　放送部

全国大会でも大活躍の郡山高校放送部に、現在の状況下での取り組みなどを伺いました。

Q．部員数・活動環境を教えてください。

現在、２年生４名、１年生２名で活動しています。

主な活動場所は放送室です。職員室の隣でありながら冷暖房がなく、夏40℃越え、冬は５℃以下のことが頻繁にあります。この環境を不憫に思った事務長さんが昨年、セラミックファンヒーターを買って下さいました（ありがとうございます）。広い部屋とはいえませんが、部員も少ないので密にはならないで済んでいます。

放送部の主な機材はカメラが５台、録音機材が２台、映像編集に使えるPCが１つと書類作成用の古いPCが数台あります（足りないときは顧問の先生に借りています）。

Q．活動の概要を教えてください。

活動は平日18時までの約１時間半です。コンテストが近いときなどは、休日に３時間程度行うこともあります。普段は校内放送をしながら、NHK全国高校放送コンテストや全国総文祭を目標に映像作品などの制作を行っています。今年はNHK杯が中止になってしまいましたが、代替県大会が開催され７部門中４部門で最優秀賞をいただくことができました。また、WEB開催となった高知総文ではビデオメッセージ部門で「ぶんずって何？」という映像作品が審査員特別賞を受賞しました。来年の和歌山総文にも出場する予定になっています。

作品制作は全員で分担して行い、全部員が垣根なく和気藹々と行っています。入部して間もない頃から作品制作を行うので、新入部員も自然に技術を覚えていきます。大切にしているのは「目標」で、常に日本一を目指しています。

Q．コロナ禍の中での苦労・取り組みを教えて下さい。

今年は人と会うことが制限され、普通の取材は全くできませんでした。なので、企画の段階から人と会わなくても可能なものを選び、取材が必要な場合もSNSやオンライン会議で行うようにしました。

Q．今後の活動抱負をお願いします。

これからどうなるかわからない状況ですが、いまできることを精一杯考え、日本一目指して頑張りたいです。